

〔延喜式三十一〕諸國例貢御贊○中 越後國煎

〔延喜式三十〕諸國貢進菓子○中 越後國甘葛煎

〔延喜式三十七〕諸國進年料雜藥○中

越後國七種 細辛、黃蘗各十斤、僕奈二斤十三兩、伏苓三斤、蜀椒八升、零羊角卅具、

〔延喜式三十九〕年料○中 越後國頭割鮭八籠八十隻、鮭兒、水

〔新猿樂記〕四郎君、受領郎等刺史執鞭之圖也○中 宅常擔集諸國土產、貯甚豐也、所謂○中 越後鮭又

漆

〔毛吹草〕越後

鉛 漆 蟻燭 白兔 白菘 松山白布 緗苧 米山當歸 弥彥黃連 臭水津油地ヨリ 糸

魚川糸魚 直江川八目鱈

〔日本書紀天智二十七〕七年七月、越國獻燃土與燃水、

〔三代實錄五十〕仁和三年六月二日甲辰、越後○中 等十九國貢緗、龜惡特甚、不如昔日、勅譴國宰採取

正倉舊樣絹、每國賜一疋、依舊樣作、

〔北越雪譜初編中〕越後縮

縮は越後の名産にして、昔く世の知る處なれど、他國の人は越後一國の產物とおもふめれど、さにあらず、我○鈴木住魚沼郡一郡にかぎれる產物也、他所に出るもあれど、僅にして其品魚沼には比しがたし、そもそも縮と唱ふるは近來の事にて、むかしは此國にても布とのみいへり、布は綺にて織る物の總名なればなるべし、今も我があたりにて、老女など、今日は布を市にもてゆけなどやうにいひて、古言ものこれり、東鑑を案るに、建久三壬子の年、勅使歸洛の時、鎌倉殿より餞別の事をいへる條に、越布千端とあり、猶古きものにも見ゆべけれど、さのみは索す、後のものに